

## 第 23 回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 開催日時：平成 19 年 7 月 19 日（木）13：30～15：20

2. 開催場所：日本電気協会 4 階 D 会議室

3. 参加者：(順不同, 敬称略)

- 出席者：石沢主査・小林（東京電力）, 野村副主査（関西電力）, 岩橋（非破壊検査）, 臼井（中国電力）, 小田倉・佐々木（日立 GE ニュークリア・エナジー）, 笹田（北海道電力）, 笹原（電中研）, 佐藤（発電技研）, 柴山・清水（MHI）, 東海林（IHI）, 杉江（原技協）, 中山（日本非破壊検査協会）, 羽田（GEI）, 原田（九州電力）, 三原田（JNES）, 三好（四国電力）, 師尾（日本原電）, 山本（東芝）, 米山（発電技検）（計 22 名）
- 代理出席者：進藤（中部電力・稲垣代理）, 藤原（電源開発・枘代理）（計 2 名）
- 欠席者：金井（WH）, 清水（東北電力）, 西田（北陸電力）, 新田（富士電機システムズ）, 原田（原子力エンジニアリング）, 藤澤（原子力安全・保安院）（計 6 名）
- 事務局：石井（日本電気協会）（計 1 名）

4. 配付資料

- 資料 23-1 原子力規格委員会 構造分科会 供用期間中検査検討会 委員名簿
- 資料 23-2 第 22 回供用期間中検査検討会 議事録（案）
- 資料 23-3 （JEAG4207-200X）「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験」の主要改訂点
- 資料 23-4-1 「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験」JEAG4207-200X（案）
- 資料 23-4-2 附属書 A 欠陥深さ寸法測定要領（案）
- 資料 23-4-3 [附属書 A 解説]（案）
- 資料 23-4-4 JEAG4207-200X 本文 新旧比較表
- 資料 23-4-5 JEAG4207-200X 附属書 新旧比較表
- 参考資料 1 第 25 回原子力規格委員会議事録（案）

5. 議事

(1) 会議定足数の確認について

事務局より、本検討会委員総数 30 名に対して、本日の委員出席者数は代理委員も含めて 24 名であり、規約上の決議の条件である『委員総数の 3 分の 2 以上の出席』を満たしていることが報告された。

(2) 代理参加者の承認について

石沢主査より、上記代理出席者の会議参加が承認された。

( 3 ) 前回議事録(案)の承認

事務局より、資料23-2に基づき前回議事録(案)が紹介され、特にコメントなく承認された。

( 4 ) 第 25 回原子力規格委員会議事録(案)の紹介

事務局より、参考資料1について、前回の検討会では第25回原子力規格委員会の内容について口頭で紹介済であるので、本議事録案は配布のみで説明は省略したい旨説明した。これに対して特にコメントはなかった。

( 5 ) JEAC4207-200X 改訂案の検討

1) 前回検討会からの変更点を中心に以下の説明があった。

a. 本文関係(資料 23-4-1)

) 2章一般事項の解説(解 3 ページ)解説 2320-1 超音波モードの選定の表について、「縦波を用いても良い」との注釈があった部分は、その対象箇所を、ステンレス鋼溶接継手の両側から探傷可能な場合は除き、ニッケル合金の軸方向探傷箇所のみとした。また、\* 1 として UTS, NNW で検出性が確認されている対象箇所について追記した。

) 本文 4 章 配管の超音波探傷要領

- ・ 配管の突合せ溶接継手の探傷要領を、容器管台とセーフエンドとの異種金属の場合(4300)とオーステナイト系ステンレス鋼の場合(4400)に分けて記載した。
- ・ セーフエンド-異材継手の名称を「容器管台とセーフエンドとの異種金属突合せ溶接継手」で統一した。また、解説(解 50 ページ)にその定義を記載した。

b. 付属書関係(資料 23-4-2, 資料 23-4-3)

) A - 1000

- ・ 現行 PD 認証制度の導入に伴う本規定との関係及び同認証による欠陥深さ測定方法が、本付属書の適用に優先することを明確にした。
- ・ 試験評価員及び試験員の記述を本文に合せ A-1300 に移行した。
- ・ タンデム法の記述を追加した。

) A - 2000

- ・ 誤記、語尾の修正を行った。

) A - 3000

- ・ 誤記、語尾の修正を行った。

) A - 4000

- ・ 探触子のモード(縦波)を追加した。

) A - 5000

- ・ JNSS SS レポートに基づき、適用範囲(A-5310)に探傷面からき裂先端の距離として 20mm(現行 10mm)程度までは適用可能であることを記載した。

) A - 6000

- ・ 時間軸及び基準感度の確認について、本文の記載に合せ 12 時間毎の確認を削除した。

2) 構造分科会及び原子力規格委員会へ諮る際の説明資料として主要改訂点をまとめた資料 23-3の説明があった。構造分科会へは、資料 23-3 及び資料 23-4-1～23-4-5までを諮る予定である。

a. 主な質疑

- ) 本文 4221 一般の記述中、ただし書きの文章から、「垂直法については」を削除する。
- ) 資料中、原子力安全基盤機構から発行された JNES-SS レポートについては、これ以外にも発行されているので、記載すべき。 採用
- ) 本規格を発行する際に、主要改訂点がかかるようなものを追加するのか。規格のユーザに変更点がわからないと良くないのでは。 他学協会の規格では主要改訂点という形で付けている例はあるが、電気協会の規格の形ではそのようになっていない。

- ・今回は、大きく変わったところがあるのであったほうが良いのかなという気がする。  
確かに、今回は主要 11 項目の他にも細かいところで直したところが相当ある。作る必要があることは理解しているが、基本的には講習会（実施するかは別にして）資料かなと考えている。
- ・ユーザが見落とすことがなければよいが。 ユーザが見落とすことはないという気はするが。
- ・新旧比較表は有料でも経緯が入っているので、本としてまとめてもらえば良いと考える。 講習会の時も使える。今回は間に合わないが、講習会等、何らかの形でユーザに渡るように対応をとるようにしたい。
- ・主要改訂点のようなものより、新旧比較表にアンケート、JNES-SS レポート等関連するものを付けた方が分かりやすいものになるのではないか。
- ・質疑応答集とは、これにオフィシャルな文書が積み上がったものになるのか。 質疑応答集は、解説-1500-1(解 1 ページ)にあるように、これとは別に電気協会の規約に則って発行されるもので電気協会のホームページに掲載される。
- ・これら（新旧比較表等）もホームページの載せることが考えられるのでは。 他の規格を見てもここまで出しているものはない。量的にも大変なものになる。ただ、何らかの形で分かるものの案を作ってご紹介したい。ただし、その時期としては、パブリックコメントを終える段階になる。質疑応答についても数が多いようであれば質疑応答集を作る必要があるのかも知れないが、今のところ質疑応答対応という形で行っている。

) 本文の記述と図表の掲載位置が離れていて分かりにくいので、図表の並びを修正すべき。 採用

- ) 本文 4200 のタイトルの付け方を「3200 容器の突合せ溶接継手」に合せて、「4200 探傷要領」ではなく、「4200 配管の突合せ溶接継手」とした方が良い。 採用
- ) 本文 4272 基準感度の設定（リニア走査の場合）の記述について、更に実施の仕方の

解説を付けるべきではないか。これはユーザが決めれば良い事で、そこまで規定して縛る必要はないと考える。これを実施するユーザはそれなりの知識をもった者はず。

以上の審議の結果に基づき、資料を一部修正し、7月25日に開催される構造分科会に諮ることについて挙手による決議を行い、全員賛成により可決された。

### 3) 今後のスケジュール

7月25日の構造分科会後の書面投票の結果によっては検討会を招集する可能性がある。このため、8月23日午後に幹事会を仮設定する。

2007年版の改訂は、電気協会の改訂ルールでは5年後の2012年になる。発行してすぐに改訂するのはユーザ側に厳しいので、その間は追補版として2009年頃の発行が考えられる。

以 上